

# アクアリウム・ダイアリー

2024年6月～2024年8月

## 催し物

7月13日～ 7月20日～	季節展示「名港花火大会inアクアリウム」 マイワシのトルネード 夏ver. ナイトパフォーマンス ロマンチックアクアリウム(夜間営業)	【水族館スクール“君もドリトル先生になれるか!”】	7月24日	イルカ	参加者19組49名
			7月28日	飼育係のお仕事	参加者16組53名
			7月31日	黒潮大水槽	参加者21組57名
			8月 4日	ペンギン	参加者15組51名
			8月 7日	シャチ	参加者21組51名
			8月21日	飼育係のお仕事	参加者16組51名
			8月25日	ウミガメ	参加者19組56名
			8月28日	ペルーガ	参加者16組50名

## 【水族館スクール“もっと知りたい!ダーウィン教室”】

6月16日 「知ればもっと好きになる!」  
ペンギンあれこれ」 参加者4組12名

## 生物の出来事

6月16日	アカウミガメ21頭 伊豆大島沖にて標識放流	7月 8日	アカウミガメ28頭 北太平洋中部東端の海域にて追跡調査のため放流
6月29日	ペルーガ「ナナ」出産、赤ちゃん死亡(死産)		

## 来訪者

6月 6日	台北市立動物園 保全研究センター 曹先紹CEO	6月30日	神奈川大学 大平剛教授
6月12日	鴨川シーワールド 藤原悟作総支配人、勝保浩館長	7月7～14日	名城大学 檜崎友子助教
6月23日	高知大学総合研究センター 齊藤知己教授	7月23日	商船三井
6月24日	金沢大学 鈴木信雄教授		執行役員安藤美和子様、名古屋支店長池原修様
6月27日	神戸須磨シーワールド	8月22日	京都大学 山敷庸亮教授
	水村樹人総支配人、中野良昭館長	8月23日	マリホ水族館 宇井賢二郎館長

## 講演・その他出来事

6月5～6日	中部ブロック獣医師研究会 WEB参加:神尾高志	【講師派遣】	
6月19～20日	JAZA動物園飼育者研修会	8月 2日	熱田神宮緑陰教室
	中部ブロック 於:日本平動物園	8月14日	名古屋市下水道科学館
	参加・発表:榊原正己	8月27日	ららぽーと名古屋みなとアクルス
	表題:『イルカプールへの落下物の回収状況と誤飲を防ぐ取り組み』	【職場訪問・水族館レクチャー(オンライン含む)】	32件 1,922名
6月26日	近畿ブロック水族館飼育係研修会 参加:尾田愛実	【職場体験】	3件 10名
7月 8日	バンドウイルカ「ソラ」、「ハル」プリーディング		
	ローンで神戸須磨シーワールドへ搬出		
7月25日	名古屋市動植物実態調査に係る専門家会合		
	参加:中嶋清徳		

## 【講師派遣】

7月 2日	名古屋市立高針台中学校
7月 9日	名古屋市立当知中学校
7月12日	名古屋市高年大学
7月21日	一宮市地域文化広場

## お知らせ

さかなかなは令和7年度(126号)よりWEB版のみの発行になります。  
併せて、定期購読サービスも終了となります。  
以降は水族館ホームページ上のWEB版をご覧ください。

## 編集後記

毎年のことながら今年も全国各地で「猛暑日」が続く中、名古屋は特に暑く連日40℃に迫る日が続きました。最高気温が30℃以上の日が「真夏日」、35℃以上の日が「猛暑日」と区別されていますが、近い将来には最高気温が40℃以上になる日を表す新しい言葉が必要になりそうです。「猛暑」より暑い日を表す言葉って…、「激暑」?「爆暑」?「熱暑」? 勝手に想像するだけでも額の汗が止まりません。(森)

表紙写真  
【フレイムエンゼルフィッシュ】

学名: *Centropyge loriculus*  
太平洋のサンゴ礁が発達する温かい海に生息している魚で、藻類や小さな甲殻類などを餌として生活しています。

ニュースレター さかなかな Vol.123 2024年 秋  
発行/公益財団法人 名古屋みなと振興財団 名古屋港水族館  
〒455-0033 名古屋市港区港町1番3号 TEL.052-654-7080  
URL <https://nagoyaaqua.jp>  
本誌の掲載記事、写真等の無断複製・複製転載を禁じます。

WEBサイト  
<https://nagoyaaqua.jp>  
(なお、一部の機種でご覧いただけない場合があります)



名古屋港水族館

## 特集

新人飼育係に聞いてみました!

- 水族館トピックス
- 水族館アカデミー ダーウィンの箱
- ほねほね探検隊
- ボランティア便り  
私の館内おすすめポイント
- 水族館スクールレポート
- アクアリウム・ダイアリー

# 新人飼育係に聞いてみました!

名古屋港水族館ではこの5月から二人の飼育係が採用となり、日々、生物の飼育業務にあたっています。今回は、この二人にインタビュー。採用されるまでのエピソード、いまの仕事について、そして将来の夢などについて語ってもらいました。

(聞き手：学習交流課 加藤浩司、小倉仁)

## 「自分のイラストが仕事に役立るといいですね」



— 大杉さんは大学卒業後、2年間他の仕事につきながら採用試験の機会を待っていたとのことですが、どのような仕事を?

**大杉**：大学時代は海洋生物系の専攻でした。水族館の飼育係の採用試験を受けたのですが望みはかなわず、スーパーの魚屋や遊園地のゲームコーナーで働いていました。

— 現在は飼育展示第二課でイルカの担当ということですが、この3か月間でどんなことを?

**大杉**：先輩たちの後ろにつき、トレーナーの仕事に日々取り組んでいます。イルカパフォーマンスでは5月の中旬にはMCを初めて担当、6月にはステージにも立たせていただきました。



メインプール前での大杉さん

— イルカのトレーナーになってみて、気づいたことや感じたこと、大変だなと思ったことや反省点などは?

**大杉**：イルカと接するようになって感じたことは「かわいいだけじゃない」ということです。通りかかった瞬間に鳴き声をかけてくるときなどは本当にかわいいのですが、あの大きな体を間近で見ていると、イルカの安全に注意を払う必要があるのはもちろん、自分自身の安全確保も大切なんだということを感じました。また、毎日の作業のパターンが多岐にわたりすぎていて、流れを把握することが大変です。先日立ち会ったイルカの輸送作業では、記録係として写真撮影を担当しました。事前に作業の流れは聞いていたのですが、当日は聞くと見るとは大違いでとても戸惑いました。それぞれの作業の細かい状況をも

う少し具体的に想定しておけばよかったと反省しています。



「日々のトレーニング、頑張ります!!」

— 大杉さんは趣味でイラストを描かれているそうですね。

**大杉**：はい、子供のころから絵を描くのが好きでした。学生時代には学祭で個展を開いたり、イラスト集を作ったりしていました。細かいところをしっかりと見ながら描くことを繰り返してきたのですが、これはイルカの個体識別に役立っているかと(笑)。



大杉さんのイラスト  
「自分のイラストが仕事に役立るといいですね」

## 「万人受けしない生き物にも興味をもってもらえるといいですね」

飼育展示第一課  
尾田 愛実

— 尾田さんは今回採用されるまで、名古屋港水族館の臨時職員として飼育業務につかかれていましたが、それまでの経歴を教えてください。

**尾田**：高校ではふれあい動物部に所属し、馬やアルパカなどを様々な施設に連れていく活動をしていました。動物に携わる仕事に就きたいと考え、卒業後は動物病院のスタッフになりましたが、自分の想定していた環境と違ったため、すぐにやめてしまい、木製家具の製造工場で働くことに。その頃得たスキルは水族館での様々な工作に役立っています(笑)。しかし動物への興味は断ち難く、もう一度チャレンジしてみようと決意し、専門学校へ通うための資金を貯め、二十歳の時に専門学校へ。専門時代は、生物の勉強をしつつ苦手な対人スキルを鍛えるため、接客業のアルバイトもしました。卒業時にちょうど臨時職員の募集があり、運よく採用されました。



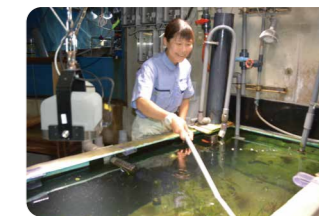
マングローブの水槽も尾田さんの担当

— 臨時職員時代の仕事内容や当時の印象を教えてください。

**尾田**：クラゲをメインに、サンゴ礁大水槽なども担当しました。クラゲの担当は、当初こんな繊細な生き物自分に扱えるんだろうかと不安になりました。でも飼育しているうちに、一口にクラゲといってもクラゲの種類ごとにいろんな違いがあることが分かりどんどん面白くなってきて、いつのまにかクラゲの魅力にはまっています。サンゴ礁大水槽では学生時代に憧れの目で見えていたダイバーコミュニケーションを自分がやる側に、泳ぐ、映す、話すの3つを同時にこなすことが、こんなにも大変な作業なんだということに気づきました。

— 現在の担当は?

**尾田**：日本の海と深海ギャラリーを担当しています。担当水槽にアマモの水槽があるのですが、植物は未経験なのでとても新鮮であると同時にクラゲとは違った繊細さに苦戦しています。肥料や照明など試行錯誤の日々ですね。他にはマダコも担当しているのですが、これからは繁殖にも力を入れていきたいです。



アマモ水槽の清掃作業

— 先日は日本動物園水族館協会の研修会で発表もされたとか?

**尾田**：近畿ブロックの水族館飼育係研修会で、くらげなごりうむについて報告をしました。立ち上げの頃から携わってきたので感慨深かったです。他園館のクラゲ担当の方とも情報交換ができて嬉しかったですね。

— 今後やってみたいことや夢は?

**尾田**：大杉さん同様、私もイラストが好きなので活かしていきたいです。臨時職員時代もくらげなごりうむの装飾や特別展のメインビジュアルを描かせてもらいました。あとは、クラゲのように小さな生き物、地味な生き物にもお客様に興味を持ってもらえるように頑張りたいと思います。



くらげなごりうむの装飾も尾田さんの作品

水族館には「将来、水族館で働きたいんですがどうすればいいですか?」という質問が多く寄せられます。今回はその夢をかなえた二人を紹介しました。二人とも採用の機会が来るまであきらめずに努力を続けたことが現在につながっています。次に夢をかなえるのはあなたかもしれません。

## アカウミガメの回遊経路調査

名古屋港水族館はスタンフォード大学などの研究者と共同で北太平洋における幼いアカウミガメの回遊経路を調査する国際プロジェクトに参画しています。

このプロジェクトは地球規模の大きな気象変動をもたらすエルニーニョ現象とアカウミガメの回遊経路の関連性を解明することを目的とした調査で、昨年から5ヶ年計画で実施しています。甲羅に位置情報を発する送信機を取り付けた2歳齢のアカウミガメ25頭程度を毎年、北太平洋中部東端のほぼ同じ海域で放流し、その後の回遊を人工衛星を用いて追跡するものです。2回目の放流となる今回も昨年同様に(株)商船三井様にご協力を賜り、7月8日(日本時間)に目的海域にてウミガメを無事に放流することができました。今年発生していたエルニーニョ現象が終息し、ラニーニャ現象に向かう海況であると予測されていることから対照実験として恵まれた条件です。放流したウミガメの回遊経路に明確な違いが出るのでしょうか?ウミガメの動向に目が離せない毎日です。

放流したアカウミガメの位置情報は<https://www.loggerheadstretch.org/>でご覧いただけます。



船員の皆さんにお手伝い頂いてウミガメを1頭ずつ海に放流しました。

■ 飼育展示第一課 森 昌範

## ミュージアムグッズを開発するワークショップを開催!

8月2, 8, 9日の3日間、ミュージアムグッズを企画開発するワークショップが開催されました。日頃から当館で折り紙ワークショップなどを開催している金城学院大学の岩崎教授によるもので、同大学および高校の生徒たちが参加、水族館のミュージアムショップで販売できるような商品を考えて発表するというものです。

初日は栗田館長による水族館概要説明、当館ショップスタッフによる実際の商品開発の話などに続き、ガイドツアーで館内を見学。グループごとにどの生き物をモチーフにするかなどが話し合われました。

二日目は自分たちのアイデアを形にする作業です。紙粘土やぬいぐるみなどを使って「こんな商品を作りたい」を形にしていきます。

最終日、グループごとに発表された商品は、食品や食器、日用品など実に様々で、どれも生き物や水族館の魅力を十分に伝えることができる素晴らしいものばかり。商品ごとにテーマや購買層、予定価格など、細かい内容も含めてプレゼンされました。テーマとなった生物の特徴など、ガイドツアーで学んだことも活かされていました。

今回発表されたグッズのアイデアは、今後、実際に商品化できそうかなどの検討がなされます。将来、学生たちのアイデアが活かされた新商品がショップで販売されることになるかもしれません。



学生へのアドバイスにはショップスタッフや同大卒の画家NAMIKOさんも参加。テーマとなった生き物もシャチやウミガメ、オキアミなど実に様々。(右上)

■ 学習交流課 加藤 浩司

## ブリーディングローンでバンドウイルカ「ソラ」・「ハル」が移動しました

バンドウイルカの繁殖を目的としたブリーディングローンで、雄のバンドウイルカ「ソラ」、「ハル」の2頭を7月8日(月)に神戸須磨シーワールドへ移動しました。

ブリーディングローンとは、希少な動物を絶やさず増やしていくために、動物園や水族館同士で動物を貸したり借りたりする制度です。名古屋港水族館ではこのブリーディングローンで2017年にバンドウイルカの雄が3頭、2021年にはカマイルカの雄が1頭、別の水族館に移動し繁殖活動に参加しています。2021年にはこのバンドウイルカの赤ちゃんが誕生しています。

今回移動したソラ(8歳)とハル(6歳)は共に名古屋港水族館生まれの若い雄ですが、今後、立派な雄に成熟し繁殖活動に参加し、全国の水族館で名古屋港水族館生まれのイルカたちの血統が残っていくことを楽しみにしています。



ソラ(左)とハル(右)

■ 飼育展示第二課 森 朋子

## 水族館トピックス 2024 秋

## 水族館deモーニングを開催しました!!

令和4年度から開催している「水族館deモーニング」も早いもので3年目、例年の大盛況をうけて、今年度は定員を少し増やしたのですが、それでもチケットは販売後即完売と相変わらずの人気っぷり。

貸切状態の館内をのんびり見学していただき、当館スタッフの開館準備作業など、普段見ることのできない水族館を大公開しました!!

南館のフードテラス「トータス」で提供する今年度のモーニングメニューは、これまでとは一風変わってマフィンやサラダ等のボリューム志向のメニューに変更し、加えてSNSで密かに話題の、深海コーナーの「潜水服」をかわいくイラスト化したオリジナルコースターと缶バッジを用意しました。

参加して下さった皆様から「楽しかった」「モーニングがおいしかった」「潜水服のイラストがかわいい」などの嬉しい感想もお聞きできました。参加した皆様の夏の思い出になれたのなら幸いです。



お客様から好評いただいた、モーニングセット

■ 営業企画課 伊藤 充史



## ライブコーラル水槽の照明更新(LED化)

飼育展示第一課 坂岡 賢

名古屋港水族館のライブコーラル水槽は南館2階の「赤道の海」に2014年12月に新設され、様々な生きたサンゴを展示しています。サンゴの体には褐虫藻(かっちゅうそう)という植物プランクトンが共生しており、サンゴが呼吸して排出する二酸化炭素と太陽光を使って光合成を行い、サンゴの栄養となる有機物を作ります。つまりサンゴの成長には「光」が不可欠です。

屋外的水槽ならば、燦爛と太陽の光が降り注ぎますが、天井があるライブコーラル水槽では、人工的に太陽の替わりとなる強い光を照らす必要があります。これまでは、強い光を放つ金属ハライドランプという種類の照明を使用してきました。しかしながら発光の材料に水銀を使用していることなどから、近年多くのメーカーがこのランプの製造から撤退しました。…このままではサンゴ達を照らす照明が無くなってしまふ…ならばこのタイミングで金属ハライドランプに代わる新たな照明を探し更新するぞ…という方針が決まりました。

最近では室内照明から信号機まで、あらゆる光を放つ製品でLED(発光ダイオード)が用いられています。LEDの特徴として、消費電力を大幅に削減できることをご存知の方は多いかもしれませんが、使用する半導体の材料を変える事によって赤・青・黄・緑…と様々な色の光を放つことができます。

「色」の変化は正確には「電磁波」の「波長」の変化になります。

日中、太陽の光は私達の目には白っぽく見えますが、実際には虹のようなさまざまな色(正確には電磁波の中の様々な波長)が混ざり合っているのです。



ライブコーラル水槽全景



LED照明  
2年をかけて26台を更新しました

少々難しい話になりましたが、LEDの様々な色(波長)を放つ特性を活かし、これまで以上に太陽光により近い光を作ることができるようになりました。さらに、サンゴを育成するために最も効果的な波長を放つLED照明も開発され始めたので、これらを導入し、サンゴの成長(図を参照)を観察しながら2年をかけて全ての照明を更新しました。この記事を書いている時点で、更新が完了してから1年8ヶ月が経過していますが、サンゴ達は今のところ問題も無く順調に成長し続けています。



照明更新前後でのスギノキミドリイシの変化

## ほわほわ探検隊



### ペンギンの骨

飼育展示第一課 東山崎 のぞみ

ペンギンが水中をビュンビュンと泳ぐ様子は見ていて気持ちの良いものです。ペンギンは空を飛ぶ鳥と同様に水中ではばたく強い筋肉を持ち、この筋肉を支えるのは大きな胸骨です。ペンギンは空を飛ぶ鳥から進化し6,500万年前には今の形になったといわれています。

500万年前のペンギン化石の大きな胸骨に注目してみてください。

500万年前の古代ペンギン(Palaeospheniscus sp.)化石のレプリカ。南館3階ペンギン情報コーナーで見ることができます。



## ボランティア便り 私の館内おすすめポイント Volunteer News

### 南館2階 ウミガメ回遊水槽横の壁面「さわってみよう!ウミガメの甲羅」

ボランティア 山田 哲也

ウミガメの甲羅に触るチャンスは貴重です。アカウミガメの骨などは愛知県や三重県の海岸にも漂着しますが、ここでは、3種類のウミガメの甲羅の表面から剥がれた綺麗なりん板を触り比べられます。ぜひ、甲羅の違いにも注目してください。



はがれかけのりん板。カメは爬虫類の仲間。甲羅も脱皮します。

アカウミガメ、タイマイ、アオウミガメの甲羅の違いを指先で確認してみてください。



## 水族館スクールレポート School Report

### 水族館体験スクールの開催

学習交流課 小倉 仁

名古屋港水族館では今年も、夏限定の水族館体験スクール「君もドリトル先生になれるか!」全16回を開催しました。今回はのべ2,400組を超える応募があり、大変好評をいただきました。

各回のテーマは「シャチ」「イルカ」「黒潮大水槽」「ペンギン」「ウミガメ」など様々。それぞれ飼育係によるレクチャーとバックヤード見学を組み合わせたプログラムになっています。

スクール終了後、参加者からは次のような感想が寄せられました。「普段見ることができない場所を見ることができてよかった。匂いや温度など、五感で体感できたことが特に印象に残りました。」「飼育員さんならではの解説や、様々な苦勞話、体験談など、普段聞けない内容ばかりでとても興味深かった。」など、夏の思い出にぴったりの体験となったようです。

今後も、様々なテーマで工夫を凝らし、学びながら楽しめるスクールを開催していきたいと思ひます。



7/24開催「イルカ」 調餌室の見学  
イルカの食事がここで作られます。  
新鮮な魚がいっぱい!イルカの餌作りの裏側を覗き見。



7/31開催「黒潮大水槽」 マイワシの輸送についての解説  
黒潮大水槽のマイワシが展示水槽に到着するまでの話に参加者は興味津々!